

スーパーサイエンスハイスクール（平成 29 年度指定）の中間評価について

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の中間評価は、指定期間 5 年のうちの 3 年目の学校について、SSH 企画評価会議協力者（外部の有識者）による研究開発の進捗状況等の評価を受けることとなっています。この評価により、各学校がその時点における研究開発等の内容を見直す機会とし、事業の効果的な実施を図ることを目的とするものです。昨年度は本校も対象となっており、令和 2 年 7 月 20 日に文部科学省からその評価結果が公表されました。以下はその抜粋です。公表された中間評価結果については下記 URL を御覧ください。

https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/13982561/www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2020/mext_00029.html

○中間評価の結果について（全 6 段階評価 本校は下線部、上から 2 番目の評価）

- ・「優れた取組状況であり、研究開発のねらいの達成が見込まれ、さらなる発展が期待される」 6 校
- ・「これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される」 14 校
- ・「これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる」 21 校
- ・「研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される」 34 校
- ・「このままでは研究開発のねらいを達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の変更等の対応が必要と判断される」 2 校
- ・「現在までの進捗状況等に鑑み、今後の努力を待っても研究開発のねらいの達成は困難であり、スーパーサイエンスハイスクールの趣旨及び事業目的に反し、又は沿わないと思われるので、経費の大幅な減額又は指定の解除が適当と判断される」 0 校

○群馬県立桐生高等学校（管理機関：群馬県教育委員会）【3 期 3 年目】の中間評価結果について

1 中間評価の結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される。

2 中間評価における主な講評

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・SSH 事業の対象生徒を普通科・理数科の全校生徒に拡大したため、新たに「資質・能力育成部」を設置し、全校体制の下で組織的に研究計画を推進しており評価できる。
- ・アンケートを中心に、成果と課題の分析・検証を定量的に行い、取組の成果が数値にも表れてきている点については評価できる。

② 教育内容等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・探究的な学習に必要な10項目の資質・能力を身に付けるために体系化したテキスト「学びの技法」が、生徒の目的意識の向上や探究プロセスの定着に有効に機能していると思われ、評価できる。
- ・課題研究の評価については、生徒がルーブリックを用いた自己評価を行い、自己評価の根拠や理由を含めて担当教員にプレゼンテーションすることで自己評価の妥当性や今後の活動指針を確認する機会を設けるなど、生徒の主体性を育むための工夫が見られ、評価できる。

③ 指導体制等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・全ての教科・科目の教員が探究の指導に関わるなど、全校的な指導体制となっており、評価できる。また、大学や市役所等の外部人材の活用にも取り組んでいる。
- ・アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業についての研修や、探究活動に関する研修など、目的意識を明確にした校内研修を積極的に企画・実施して教員の指導力向上に努めており、評価できる。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・桐生市役所と連携して、地域の課題解決を探究する「桐生学」を実施するなど、特色ある取組を行っており評価できる。
- ・「群馬大桐高科学教育検討会」を通じて、群馬大学理工学部と高大連携や高大接続の改善に資する協議等を継続的に行っていることについては評価できる。今後の更なる成果に期待したい。
- ・理数系クラブには41名の生徒が在籍しており、コンテストや外部の発表会等にも積極的に参加するなど活発に活動しており、評価できる。今後もより一層生徒の主体性を育むとともに、活動の質を高めていくことが望まれる。

⑤ 成果の普及等に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されている】

- ・毎週実施される「探究基礎Ⅰ」の学年会議において、オリジナルテキスト「学びの技法」の内容の読み合わせを行うなど、学校内における研究成果や情報の共有を図っており評価できる。
 - ・「探究Ⅰ」の授業公開、SSH課題研究発表会の一般公開や他校教員を含めた情報交換会の実施、視察受け入れ、「学びの技法」の他校への配布等、成果の普及・発信に積極的に取り組んでおり、評価できる。
- 3期目の学校としてこれまでの成果を他校にも分かりやすい形でまとめ、学校ホームページ等を通じて公開していくなど、研究成果の普及・発信により一層取り組んでいくことが望まれる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価

【研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成がやや不十分であり、一部改善を要する】

- ・教員1名の加配やSSHの取組に意欲的な教員の公募、「群馬県SSH等合同成果発表会」や「群馬県理科研究発表会」の開催、教育課程研究協議会での指定校による事例発表など、指定校への適切な支援や成果普及に関する取組を行っており評価できる。群馬県内における課題研究や探究的な学習活動のより一層の普及に向け、教員研修等において指定校の成果を更に活用していくことが期待される。